

## 諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	7
2 委員の辞任	7
第 2 各部・各委員会等報告	7
1 部会の開催とその議題	7
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	8
3 機能別委員会の開催とその議題	8
4 分野別委員会の開催とその議題	9
5 課題別委員会の開催とその議題	18
6 若手アカデミーの開催とその議題	19
7 連絡会議の開催とその議題	19
8 サイエンスカフェの開催	19
9 記録	19
10 総合科学技術・イノベーション会議報告	19
11 慶弔	20
12 意思の表出（英訳版）に係る報告	20
13 インパクト・レポート	20

## 第1. 前回幹事会以降の経過報告

### 1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
8月26日(木)	記者会見	梶田会長 菱田副会長 望月副会長 高村副会長 小林幹事
8月27日(金)	ASEAN 設立 54 周年記念シンポジウム「『ニューノーマル』における ASEAN の経済的および社会的地域統合」	高村副会長
8月30日(月)	国際計測連合第23回世界大会(オンライン)	高村副会長
9月18日(土)	学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性」	梶田会長
9月22日(水)	S20&SSH20 本体会合	梶田会長 高村副会長
9月25日(土)	公開シンポジウム「WITH/AFTER コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション」	梶田会長

注) 部会、委員会等を除く。

### 2 委員の辞任

地球惑星科学委員会 IUGS 分科会地質年代学小委員会

兵頭 政幸 (令和3年9月14日付)

土木工学・建築学委員会気候変動と国土分科会佐賀低平地への適応策実装検討小委員会

宇曾谷 隆博 (令和3年8月4日付)

藤本 幸司 (令和3年8月4日付)

## 第2. 各部・各委員会報告

### 1 部会の開催とその議題

(1) 第二部役員会 (第14回) (9月30日)

- ① 二部に関連した提言のあり方
- ② その他

(2) 第三部拡大役員会 (第11回) (9月30日)

- ① 第三部夏季部会について

- ② 科学的助言機能の改革と第三部役員会の役割について
- ③ 提言等作成過程における連絡会議と分科会の連携と第三部役員会の役割について
- ④ 学術会議と学協会の連携の調査について
- ⑤ その他

## **2 幹事会附置委員会の開催とその議題**

(1) 広報委員会「学術の動向」編集分科会（第4回）（8月20日）

- ① 「学術の動向」の編集について
- ② その他

(2) 広報委員会（第4回）（9月9日）

- ① 学術会議の状況について
- ② 情報発信に係るメンバー強化について
- ③ 論説委員等との記者懇談会の開催について
- ④ 学術会議の広報に係る意思決定について
- ⑤ その他

## **3 機能別委員会の開催とその議題**

(1) 年次報告検討分科会（第2回）（8月26日）

- ① 前回議事要旨の確認
- ② 意見交換
- ③ 次回内容の確認
- ④ その他

(2) 選考委員会（第2回）（8月26日）

- ① 定年により退任する会員の連携会員への就任について
- ② その他

(3) 科学者委員会男女共同参画分科会（第5回）（8月27日）※メール審議

- ① 公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティー大学における女性リーダーから見た課題と展望」の開催について

(4) 科学者委員会学協会連携分科会（第4回）（9月8日）

- ① 前回議事要旨の確認
- ② 講演 日本医学会連合会長 門田守人先生
- ③ 講演 日本教育学会会長 広田照幸先生
- ④ 意見交換
- ⑤ 日本学術会議と国内の学協会連合等との連携に関する調査について
- ⑥ 学会名鑑について
- ⑦ その他

(5) 科学者委員会男女共同参画分科会性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会 (第6回) (9月17日)

- ① 前回議事録の確認
- ② 「性スペクトラム」に関する話題提供 大阪大学 立花誠先生
- ③ 今後の活動について
- ④ その他

(6) 国際委員会フューチャー・アースの国際的展開対応分科会 (第3回) (9月20日)

- ① フューチャー・アース総会 (Assembly) への代表者の派遣について

(7) 国際委員会 (第11回) (9月29日)

- ① フューチャー・アース総会 (Assembly) への代表者の派遣について
- ② 国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について (1件)

**4 分野別委員会の開催とその議題**

**第一部担当**

(1) 社会学委員会 フューチャー・ソシオロジー分科会 (第4回) (8月27日)

- ① 分科会活動の内容確認と細部提案についての検討
- ② 活動成果発出形態の検討
- ③ その他

(2) 地域研究委員会 多文化共生分科会 (第4回) (8月27日)

- ① 報告 友永健三氏 (一般社団法人・部落解放人権研究所 名誉理事)  
「日本での人種差別撤廃条約25年と今後の課題」
- ② 日本学術会議の提言のあり方の見直しについての意見交換
- ③ その他

(3) 第一部 総合ジェンダー分科会 (第4回) (9月2日)

- ① 後藤弘子連携会員・三浦まり連携会員「タイトルラインと学校におけるジェンダー平等」
- ② 今後の活動計画について
- ③ その他

(4) 社会学委員会 災害・復興 知の再審と社会的モニタリングの方法検討分科会 (第5回) (9月2日)

- ① 震災復興現場から報告
  - 1) 池田恵子委員
  - 2) 浅川達人委員

3) 発表を受けての総合的議論

② その他

(5) 法学委員会 セーフティネットと法分科会 (第4回) (9月2日)

① 丸谷浩介「全世代型社会保障改革の課題」

② 和田肇「非正規雇用とセーフティネットの課題—リーマンショックと比較して」

(6) 史学委員会・地域研究委員会・哲学委員会・言語・文学委員会合同 アジア研究・対アジア関係に関する分科会 (第2回) (9月3日)

① 提言書等の目標設定・作成方法について

② 9月18日シンポジウムについて

③ そのほか

(7) 経済学委員会・環境学委員会合同 フューチャー・デザイン分科会 (第2回) (9月3日)

① フューチャー・デザイン研究のマッピング

② その他

(8) 社会学委員会・経済学委員会合同 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 (第4回) (9月6日)

① 6月19日勉強会のふりかえり

② 「資料3」について

③ その他

(9) 地域研究委員会 地域研究基盤強化分科会 (第3回) (9月9日)

① 共通タイトル「地域研究と国際協力(JICA)の接点」

戸川正人監事「人材育成の観点から」

加藤隆一上級審議役「アフリカ事業の観点から」

② その他

(10) 地域研究委員会 アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会 (第3回) (9月10日)

① シンポジウムの日程：7月から12月へ：日程の確定

② シンポジウムのタイトル：

24期に続き、アジアの地域協力と学術ネットワーク(2)：対立の深刻化と、ネットワーク再編

③ それぞれの報告概要

④ シンポジウムに向けて：海外の研究者を入れるか。など。

⑤ その他

(11) 心理学・教育学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・社会学委員会・史学委員会・地域研究委員会・情報学委員会合同 デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会 (第3回) (9月10日)

- ① 役員の選出
- ② 日本語学に関するデジタル研究環境について
- ③ 第25期の活動計画
- ④ その他

(12) 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会 (第4回) (9月10日)

- ① 話題提供ならびに質疑
  - i) 話題提供：土井政和委員「刑法理論から見た人間観」
  - ii) 話題提供：行場二郎委員「公認心理師試験の見直しに向けて」
- ② 今後の活動方針について
- ③ その他

(13) 法学委員会 社会と教育における LGBTI の権利保障分科会 (第3回) (9月12日)

- ① トランスジェンダーの権利—2020年9月提言のフォローアップ  
講師 清水晶子 (東京大学)
- ② 活動予定について (各グループ)
- ③ その他

(14) 地域研究委員会 地球惑星科学委員会合同 地理教育分科会 (第3回) (9月12日)

- ① 「地理総合」をはじめとする地理教育普及の方策—教科書記述の検討—
- ② その他

(15) 経済学委員会 ワークライフバランス研究分科会 (第2回) (9月13日)

- ① 分科会主催のシンポジウムについて

(16) 第一部 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会 (第3回) (9月13日)

- ① 人文・社会科学の役割とその振興に関する講演と質疑  
伊神 正貫氏 (科学技術・学術政策研究所科学技術予測・政策基盤調査研究センター長)  
河村 雅之氏 (文部科学省研究振興局振興企画課学術企画室長 (人文科学・社会科学振興室長))

(17) 心理学・教育学委員会 心の総合基礎分科会 (第3回) (9月14日)

- ① 公認心理師資格への基礎心理学分野からのアクションについて
- ② カーボンニュートラルへの取り組みについて
- ③ その他

(18) 社会学委員会 ジェンダー研究分科会 (第5回) (9月14日)

- ① 法学委員会ジェンダー法分科会及び政治学委員会比較政治分科会主催公開シンポジウム「女性の政治参画をどう進めるか？」の共同の主催について
- ② その他

(19) 政治学委員会 比較政治分科会 (第3回) (9月15日)

- ① 公開シンポジウムについて

(20) 社会学委員会 社会理論分科会 (第3回) (9月17日)

- ① 今期の具体的な活動について
- ② その他

(21) 言語・文学委員会 人文学の国際化と日本語分科会 (第7回) (9月19日)

- ① 最終案に向けての準備作業
- ② 日本学術会議「提言」に関する言語・文学委員会よりの連絡事項の確認
- ③ 今後の予定
- ④ その他

(22) 心理学・教育学委員会 心の研究将来構想分科会 (第2回) (9月21日)

- ① これまでの談話会での議論の総括
- ② 「総合知」に関する発信
- ③ カーボンニュートラルへの取り組みについて
- ④ その他

(23) 第一部総合ジェンダー分科会 (第5回) (9月23日)

- ① 公開シンポジウム「女性の政治参画をどう進めるか？」について
- ② その他

(24) 史学委員会 文化財の保護と活用に関する分科会 (第3回) (9月24日)

- ① 諸問題の報告と検討
  - 1-1 辻田淳一郎委員「文化財専門職と大学の考古学教育」
  - 1-2 恵谷浩子委員「文化財防災センターの設立と現在の取り組み」
  - 1-3 佐藤義明委員「文化財と国際法—人災・天災と文化遺産の保護を中心として」
- ② その他

(25) 法学委員会 IT社会と法分科会 (第3回) (9月24日)

- ① 報告 前回以降の日本学術会議をめぐる状況
- ② IT社会と法分科会提言に向けて
- ③ その他

(26) 地域研究委員会 地域学分科会 (第4回) (9月25日)

- ① 報告  
山川 充夫 連携会員「原発災害地域における『ふるさと創造学』の展開」  
佐無田 光 特任連携会員「地方創生の第2ステージと地域学の展開可能性」  
宮町 良広 連携会員「高大連携による人材育成と地域学の関わり」

(27) 政治学委員会 政治過程分科会 (第2回) (9月25日)

- ① 本年度の活動について
- ② 他の委員会や分科会との協働について
- ③ その他

(28) 社会学委員会 新しい社会的課題の解決に関する総合的検討分科会 (第3回) (9月29日)

- ① シンポジウムの具体化
- ② その他

(29) 史学委員会 博物館・美術館等の組織運営に関する分科会 (第4回) (9月29日)

- ① 報告「博物館法制度の今後のあり方について」  
(参考人：文化庁企画調整課 課長補佐 稲畑航平氏)
- ② 博物館法の改正、今後の博物館制度のあり方について
- ③ その他

第二部担当

(1) 食料科学委員会 獣医学分科会 (第2回) (8月28日)

- ① シンポジウムに関する検討
- ② その他

(2) 健康・生活科学委員会 家政学分科会 (第5回) (8月30日)

- ① 生涯学習について
- ② 家庭科における免許外教科担任制度・臨時免許状について
- ③ 生活科学系コンソーシアム第32回会議について
- ④ その他

(3) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会** (第5回) (9月1日)

- ① 高齢者の健康分科会の活動方針と提言案に向けて
- ② 高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる健康・生活科学の役割と発揮 (第二部 健康・生活科学系)
- ③ 第一部・第二部・第三部のグループ会議及び提言中間報告案
- ④ その他

(4) **農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS分科会** (第3回) (9月4日)

- ① IUSS と国内学会・学術会議の連携のあり方  
(IUSS 会長 L. B. R. Sanchez 博士がオンライン参加)
- ② IUSS 役員選挙実施方法の検討
- ③ その他

(5) **健康・生活科学委員会 家政学分科会** (第6回) (9月6日)

- ① 生涯学習に関する提言の検討
- ② 家庭科における免許外教科担任等に関する提言の検討
- ③ その他

(6) **食料科学委員会・農学委員会合同 農芸化学分科会** (第3回) (9月14日)

- ① シンポジウム開催計画について
- ② 学術会議の現状について
- ③ その他

(7) **薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同 毒性学分科会** (第3回) (9月15日)

- ① 毒性学分科会の今後の活動について
- ② シンポジウムの開催について
- ③ その他

(8) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 総合微生物科学分科会** (第3回) (9月17日)

- ① 本邦における微生物科学の中長期的な諸問題への対応
- ② その他

(9) **第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会** (第11回) (9月28日)

- ① 分科会の活動について
- ② 学術の動向での提言解説記事について
- ③ ご講演と質疑  
「新型コロナウイルス感染症感染動向」

北野宏明先生（内閣官房コロナウイルス感染症対策・AI シミュレーション検討会  
議座長、人工知能研究開発ネットワーク会長）

「官学連携と新型コロナウイルス対策---広島県の事例」

田中純子先生（日本学術会議連携会員、広島大学理事・副学長、大学院医学系研  
究科教授、広島県感染症・疾病管理センター感染症専門員）

「大規模感染症のための有事体制構築は必要か？COVID-1 緊急フォーラムから」

中川晋一先生（日本学術会議連携会員、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会  
委員、一般社団法人情報通信医学研究所代表理事・所長）

④ その他

第三部担当

(1) 化学委員会 材料化学分科会（第2回）（8月27日）

① 化学委員会報告

(2020年12月25日(第2回)以降に開催された化学委員会の概要)

② 材料化学分科会の活動に関する意見交換

(2) 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会（第3回）（8月30日）

① 講演1：平田直先生「理学、地震学から3・11からの10年」

② 講演2：国土交通省水管理・国土保全局長 井上智夫様「流域治水について」

③ 水関係シンポジウムの最終的調整

④ 環境変動シンポジウムの準備状況についての報告

⑤ その他

(3) 土木工学・建築学委員会（第5回）（9月1日）

① 分科会の活動状況について

② 今後の予定について

③ その他

(4) 土木工学・建築学委員会 インフラ高度化分科会（第4回）（9月1日）

① 各WGからの報告

② 学術フォーラムの開催について

③ 意見交換

④ 今後の展開

(5) 情報学委員会 情報学教育分科会（第4回）（9月10日）

① シンポジウムに関する意見交換

② 入試への情報科目の導入に対する対応について

③ 情報教育の設計指針のアップデートと活用についての方策

④ その他

(6) 化学委員会 分析化学分科会 (第6回) (9月10日)

- ① 学術会議フォーラムの準備：準備状況の報告確認と今後の準備についての確認
- ② フォーラム当日 (11月11日) の分科会 (当日の段取りの最終確認) について及びフォーラムの成果の広報について
- ③ 今後の分科会での審議予定について
- ④ その他

(7) 情報学委員会 デジタル社会を支える安全安心技術分科会 (第4回) (9月13日)

- ① 話題提供  
後藤 厚宏 様「大規模サイバーセキュリティリスクとデジタル時代の“備え”」  
佐藤 一郎 先生「2021年改正個人情報保護法とその影響」
- ② 全体議論
- ③ 今後の話題提供について
- ④ シンポジウムについて
- ⑤ 今後の予定

(8) 土木工学・建築学委員会 都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会 (第5回) (9月16日)

- ① 委員からの話題提供
- ② 今後の進め方について
- ③ その他

(9) 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会 (第3回) (9月17日)

- ① 制御パワー工学分科会 25期の活動
- ② カーボンニュートラルに関する連絡会議について
- ③ 話題提供 ゲスト；横山明彦氏
- ④ 話題提供 金子 (成) 委員
- ⑤ 話題提供 河村委員
- ⑥ その他  
6-1 次回話題提供者の調整  
6-2 夏季部会報告

(10) 機械工学委員会 ロボット学分科会 (第2回) (9月17日)

- ① 話題提供 新井史人先生 東京大学大学院工学系研究科教授
- ② 話題提供 小林正啓先生 花水木法律事務所弁護士
- ③ その他

(11) 総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会 (第2回) (9月18日)

- ① 新委員の紹介 (跡見順子委員)
- ② 4小委員会の進捗状況
  - 2-1 可視化の新パラダイム策定小委員会 (藤代一成委員)
  - 2-2 ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会 (田中覚幹事)
  - 2-3 社会に資する可視化の小委員会 (伊藤貴之幹事)
  - 2-4 細胞-身体可塑基盤からの自分を知り育てる科学知見創出に資する可視化小委員会 (跡見順子委員)
- ③ 分科会中心に、学術変革領域(A)応募に関して (藤代一成委員)
- ④ 「カーボンニュートラルに関する連絡会議」に分科会として参加の件 (萩原一郎委員長)
- ⑤ その他

(12) 情報学委員会 環境知能分科会 (第6回) (9月21日)

- ① 開会挨拶 土井先生
- ② 国交省 大島様 御講演
- ③ 東大 稲見先生 御講演
- ④ 提言(案)について

(13) 物理学委員会 (第6回) (9月25日)

- ① 夏季部会報告、各分科会からの報告
- ② 提言見直しについての意見交換
- ③ カーボンニュートラルについての意見交換
- ④ 研究力強化についての意見交換
- ⑤ IYBSSD2022 に対する対応について
- ⑥ 委員の分科会への所属状況等について

(14) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 (第4回) (9月27日)

- ① 第3部8月度報告について
- ② 安全工学シンポジウム開催報告
- ③ 特任連携会員について
- ④ カーボンニュートラルへの取り組みの進め方について
- ⑤ 各小委員会報告
- ⑥ その他

(15) 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 (第2回) (9月29日)

- ① IUGG 分科会の各小委員会の活動報告

- ② IUGG の動向
- ③ 学術会議の動向
- ④ IYBSSD の動向
- ⑤ その他

## 5 課題別委員会の開催とその議題

### (1) 自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会 自動運転企画分科会 (第3回) (8月28日)

- ① 委員会の企画調整について (委員会・小委員会関係ほか)
- ② 学術フォーラムについて
- ③ 学術の動向について
- ④ その他

### (2) 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会 (第2回) (9月8日)

- ① 学術フォーラム実施について
- ② 会員・連携会員向けアンケート実施について
- ③ 今後の進め方について
- ④ その他

### (3) フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会 (第3回) (9月12日)

- ① 分科会に関係する国際的・国内的動向
- ② フューチャー・アースについての勉強会 (講師：春日委員)
- ③ 次回分科会 (12月、オンライン、公開) について
- ④ その他

### (4) オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会 (第3回) (9月17日)

- ① 学術フォーラムの企画について
- ② その他

### (5) 自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会 (第4回) (9月28日)

- ① 話題提供 1 自動車交通の本質と AI 革命 家田委員
- ② 話題提供 2 ドイツ社会における基本権の遍在 一連邦憲法裁判所に対する国民の信頼 自動運転に関する最近の話題 鈴木 (秀) 委員
- ③ 分科会報告 永井委員長
- ④ 小委員会報告 中野幹事
- ⑤ 外向きのイベント企画について 学術フォーラム、特集記事

⑥ 今後の予定について

## 6 若手アカデミーの開催とその議題

(1) 若手アカデミー 運営分科会 (第4回) (9月1日)

- ① 各分科会プロジェクト
- ② YAJウェブサイト
- ③ 特任連携会員の推薦について
- ④ その他

## 7 連絡会議の開催とその議題

(1) カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議(第1回)(9月16日)

- ① 梶田会長挨拶
- ② 連絡会議の趣旨説明
- ③ 気候変動に関する最新の科学的知見(IPCC第6次評価報告書第1作業部会報告について)
- ④ 委員会、分科会等におけるカーボンニュートラルに関する活動の状況と関心事項の紹介
- ⑤ 委員会、分科会等におけるカーボンニュートラルに関する活動と関心事項の俯瞰
- ⑥ 今後の連絡会議のあり方などについての意見交換
- ⑦ その他

## 8 サイエンスカフェの開催

なし

## 9 記録

なし

## 10 総合科学技術・イノベーション会議報告

### 1. 本会議

8月26日(木)第56回CSTI本会議(オンライン)

### 2. 専門調査会

なし

### 3. 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員会合

9月2日(木)CSTI有識者会合(オンライン)

9月9日(木)CSTI有識者会合(オンライン)

9月16日(木)CSTI有識者会合(オンライン)

## 1 1 慶弔

### ・ご逝去

吉岡 充弘（よしおか みつひろ） 令和3年9月7日 享年63歳  
会員（第24-25期）、北海道大学大学院医学研究院教授

## 1 2 意思の表出（英訳版）に係る報告（参考資料C 参考2を参照）

（1）第一部哲学委員会いのちと心を考える分科会（日本語提言：2020年8月4日公表）  
提言「人の生殖にゲノム編集技術を用いることの倫理的正当性について」

### RECOMMENDATION

「Ethical justification for the use of genome editing technology for human reproduction」

## 1 3 インパクトレポート

（提言）「「地元創成」の実現に向けた看護学と社会との協働の推進」  
インパクト・レポート

### 1 提言等内容

- ・創設を提言する地元創成看護学とは、「地元(home community)の人々(population)の健康と生活に寄与することを目的として、社会との協働により、地元の自律的で持続的な創成に寄与する看護学」である。地元自ら主体的に活動していく価値観のもと、地元の人々が課題解決に向けた方策を自ら考え創っていくのを可能にすることを意図している。
- ・この実現のため看護系大学は、(1)看護学のパラダイムシフトとして地元創成看護学への理念の転換、(2)「地元」住民との連携強化、(3)広域・政策担当者との連携強化の3点に取り組み、(4)COVID-19の感染拡大や自然災害下における地元創成看護学の開発・実践に着手することが必要である。この地元創成看護学を、文部科学省は学問の一領域に位置づけ、厚生労働省は地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みに位置づけるべきである。

### 2 提言等の発出年月日

令和2（2020）年9月2日

### 3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

4 (2) (a) のとおり、学協会との連携にて、健康・生活科学委員会看護学分科会委員が登壇し、提言名をタイトルとするセミナーを開催。

#### 4 社会に対するインパクト

##### (1) 政策への反映

有  無

##### (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

###### (a) 学協会

- ・日本看護科学学会第40回学術集会・日本看護系学会協議会共催の共同セミナー（実施日2020年12月13日（日））にて、本提言について紹介、および議論が行われた（タイトル：「[日本学術会議 提言]「地元創成」の実現に向けた看護学と社会との協働の推進」オンデマンド講演、オンラインディスカッション）。
- ・日本看護系学会協議会より、2回、47社員学会へ配信
- ・日本看護科学学会第41回学術集会・日本看護系学会協議会共催のシンポジウムを企画中。

###### (b) 研究教育機関

- ・神戸市看護大学等にて、新カリキュラムへの反映を検討中

###### (c) 市民

なし

#### 5 メディア

なし

#### 6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

特になし。

#### 7 考察と自己点検（a-cから一つ選択し、説明する）

##### (a) 予想以上のインパクトがあった

##### (b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

##### (c) 期待したインパクトは得られなかった

(b)と評価する。特に、学協会による支持を得ることができ、セミナー等で多くの参加者と議論をすることができた。それによって、複数大学にて新カリキュラム作成の資料となった。

インパクト・レポート作成責任者  
健康・生活科学委員会看護学分科会委員長 小松 浩子  
提出日 令和3年8月16日

(提言)「ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造」  
インパクト・レポート

1 提言等内容

本提言では、多層的なケアのあり方を包括的に概観し、多学問分野及び市民、行政等が協働し、ケアを中心に据えて社会の課題に取り組む知の体系としての「ケアサイエンス」の創設を提案し、相互支援を基盤にもつコミュニティ（ケア共同社会）の構築の実現に向けた人材育成、研究の基盤形成、社会実践の方策を提唱した。

構成は次の通りである。

- (1) ケアサイエンスの提唱
- (2) ケアサイエンスを推進する人材育成
- (3) ケアサイエンスの基盤形成
- (4) 社会実装の方策

2 提言等の発出年月日

令和2年（2020）年9月2日

3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

- ・本分科会主催の公開シンポジウムを開催（実施日：令和3年5月23日）「With/After

コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」

当日オンライン参加：367名

You tube 視聴回数：889回

- ・日本看護系学会協議会の48社員学会へメールで配信

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

有・無

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

(a) 学協会

- ・第22階日本赤十字看護学会学術集会 教育講演「看護学の基盤となるケアサイエンスの意義と展望」（講演者：小松 浩子）
- ・The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, February 28-29, 2020, Creation of Care Science: Towards a Person-Centered Society (Hiroko Komatsu, Yumi Nishimura)

(b) 研究教育機関

- ・関東学院大学にて、少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会委員長の西村ユ

ミによる招聘講演（令和3年9月15日予定）「ケアサイエンス」

(c) 市民

公開シンポジウムの You tube 視聴回数が、約1カ月間で889回となった。

5 メディア  
なし

6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。  
なし

7 考察と自己点検（a-c から一つ選択し、説明する）

(a) 予想以上のインパクトがあった

(b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

(c) 期待したインパクトは得られなかった

提言の関連学会等への周知に際し、日本看護系学会協議会の協力が得られた。公開シンポジウムの参加者からは多くの質問があり、反応は良好であった。公開シンポジウム参加者数、および You tube 視聴回数より、ケアサイエンスへの関心の高さが認められた。今後も、「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」の連続シンポジウムの実施と成書の出版を通して、提言の周知と内容の洗練を行う。

インパクト・レポート作成責任者  
健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同  
少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会委員長 西村ユミ  
提出日 令和3年8月22日

(提言)「人口減少社会に対応した農業情報システム科学の課題と展望」  
インパクト・レポート

1 提言等内容

- ・ わが国の食料生産に関係する農作業のすべての工程の自動化・高度化・システム化をめざし、機械化が困難であった熟練・補完作業の設計利用可能な分散・モジュール型のデータベース化およびシステム化・機械化の促進、およびシステム設計者や利用者によるデータベース評価の仕組みを整備すること。
- ・ 生産・出荷から小売・消費までを支える事業体群が連携して健康維持をめざし安定した食料供給を実現するため、マーケットイン対応のデータ共有スキームを構築すること。
- ・ 諸外国と連携して、産業技術革新に呼応した農業情報分野におけるオープンイノベーションを推進すること。
- ・ スマートフードシステムを推進するため、基礎と応用・専門と学際・学術とビジネスの課題に同時に対応できる人材チームの養成システムを創成し拡充すること。

2 提言等の発出年月日

令和2年(2020年)9月7日

3 フォローアップ(提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動)

- ・ Science Report 026「データは誰のもの? 02 農業をもっとスマート&オープンに」、情報・システム研究機構  
<https://sr.rois.ac.jp/article/sr/026.html>  
英文 2020.10.12 発出 (和文 2019.10.10 発出)
- ・ 学術会議叢書 28「日本の食卓と食料生産の強靱化について考える」、日本学術協力財団、2021.1.27、p289

4 社会に対するインパクト

(1) 政策への反映

○有・無

- ・ 農業データ共有のため、農林水産省が「農業分野におけるオープンAPI整備に関するガイドライン ver1.0」を策定(2021.2.10)

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

(a) 学協会

- ・ アジア学術会議第20回大会におけるオーガナイズドセッション「Smart Transformation in Agriculture and Local Community」にて、提言者が招待講演(2021.5.14, 広州)「Community-based Digital Farming Strategy (keynote), S. Shibusawa」、 「High-Resolution Plant Data for Intelligent Environment Control in Greenhouse

(invited), K. Takayama]

(b) 研究教育機関

- ・ オンラインにて関連シンポジウム開催「スマートフードチェーン国際シンポジウムー食の生産・流通・消費を最適化するデータ連携プラットフォームのグローバル展開ー」、共催：SIP「スマートバイオ産業・農業基盤技術」スマートフードチェーンコンソーシアム、農研機構、慶應義塾大学 SFC 研究所、2020. 11. 5
- ・ オンライン関連ワークショップ「Digital Multicountry Program Workshop on Smart Resource Productivity Management, Asian Productivity Organization (APO)」にて招待講演（2020. 20. 16-18, 東京）、「Resource Productivity Management by Precision Agriculture」S. Shibusawa、「Concept of Precision Agriculture」S. Shibusawa
- ・ 大阪府立大学 PFC (Plant factory center) セミナーⅢ 「スピーキング・プラント・アプローチ研究の最前線」招待講演（2021. 3. 22, オンライン）「実装型高精度フェノタイピング技術による植物生産の高度化」高山弘太郎
- ・ オランダ政府主催（オランダ農業自然食品品質省） デジタルミッション「スマート農業ウェビナー」招待講演（2021. 2. 4, オンライン）「日本の園芸セクターにおけるロボット・オートメーションの傾向と課題の概要：高精度生体情報が可能にする栽培管理の高度化」高山弘太郎

(c) 市民

- ・ 令和 2 年度滋賀県園芸振興大会 招待講演（2021. 2. 25, 滋賀）「リアルタイム植物生体情報計測による栽培管理の高度化」高山弘太郎
- ・ マルチモーダルセンシング共創コンソーシアム シンポジウム 2021 招待講演（2021. 3. 2, オンライン）「マルチモーダルセンシング技術による農業分野への展開 研究成果報告」高山弘太郎
- ・ アグリクロス in なごのキャンパス 招待講演（2021. 3. 5, 名古屋）「スマート農業に実施される先端工学技術ー豊橋技術科学大学の取り組みと展望ー」高山弘太郎
- ・ 施設園芸・植物工場展（GPEC）2021 招待講演（2021. 7. 16, 愛知県）「実装型高精度植物生体情報計測による施設生産の高度化」高山弘太郎

5 メディア

- ・ 農経しんぼう（2020年9月21日）経営・文化欄
- ・ 農経しんぼう（2020年9月28日）クローズアップ欄

6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

特段なし。

7 考察と自己点検（a-c から一つ選択し、説明する）

- (a) 予想以上のインパクトがあった
- (b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた
- (c) 期待したインパクトは得られなかった

農業労働力衰退と環境変動の激化の中で農業生産および流通への意識が急速に高まり、本提案の刺激をうけ、農業データ共有を推進する農林水産省の施策が策定され、産官学の参加するコンソーシアムが組織され社会実装が取り組まれている。国内外の関連学术界に波及効果が期待される。

インパクト・レポート作成責任者  
農業情報システム学分科会委員長 高山 弘太郎  
提出日 2021年8月23日

(提言)「被服学分野の資格教育の現状と展望」  
インパクト・レポート

1 提言等内容

(1) 1級衣料管理士課程の認定条件の見直し

現行制度では衣料管理士(TA)の必要性は高まらず、認定校の継続も困難になる。現状に対応できる実力のある1級衣料管理士を養成するために、認定校と資格認定を行う協会((一社)日本衣料管理協会)は被服学分野におけるTA教育の果たす役割の大きさを再確認し、両者が実現可能な将来構想を協議し、1級衣料管理士の認定課程や関連規定等の制度改革が必要である。

(2) 生活財関連の消費者対応専門官等への1級衣料管理士の任用

近年、多種多様の加工が施された繊維製品や洗剤、化粧品、染毛剤等の多くの生活財が生産されてきたが、消費者はその詳細は殆ど知るべきがない。1級TAが生活者の視点に立って、生活財に対する性能評価法・性能の持続性・性能の等級・製品に対する表示方法の開発等に対応するべきである。監督官庁である経済産業省指導のもとに関連法規を見直し、1級TAがヒーブとして活動できる公的なポジションを消費者庁・独立行政法人国民生活センター・都道府県の消費生活センター等に新設することを提案する。

(3) 「専修衣料管理士」及び「国家資格衣料管理士(仮称)」の新設

学部卒の1級TA資格の上位に、専修衣料管理士(仮称)資格を新設し、大学院博士課程において1級TA認定校の講師以上に推薦できる後継者を育成する。将来的には、業界にも生活者にも偏しない、地球環境を見据えた衣料管理士を育て、関連分野の専門家の層を厚くするために、国家試験によって認定する国家資格衣料管理士(仮称)を新設することを提案する。

2 提言等の発出年月日

令和2年9月7日

3 フォローアップ(提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動)

- ・本分科会主催の公開シンポジウムを開催(令和元年10月27日)。「生活によりそう 家政学—衣生活を支える被服学における資格士教育の位置づけ—」
- ・生活科学系コンソーシアム(日本学術会議健康・生活科学委員会生活科学(家政学)分科会)と、(一社)日本家政学会をはじめとする関連学協会(19団体)との連携を目的として平成19年に設立)主催の第9回シンポジウム(令和2年12月26日、オンライン)を開催。「前期(第24期)日本学術会議から発出した生活科学関連の3つの提言について」を実施。
- ・衣料管理士養成に関わる関係機関に提言を送付して周知を図った。送付先は、文部科学省、経済産業省、消費者庁、内閣府など関係各府省及び衣料管理士資格を認定する(一社)日本衣料管理協会と1級衣料管理士資格養成を行う4年制の全大学13校。

#### 4 社会に対するインパクト

##### (1) 政策への反映

- ・無

##### (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

###### (a) 学協会

- ・提言に掲げた課題が衣料管理士（T A）資格の認定機関である（一社）日本衣料管理協会においても検討され、協会の HP の一部に反映された。

###### (b) 研究教育機関

- ・衣料管理士資格に関係する（一社）日本衣料管理協会及び1級衣料管理士を養成する4年制の全大学に提言を送付して意見を求めた。資格認定機関からは、より良い資格とするために養成校のアンケート結果を活用したいこと、多くの養成校からは、提言の内容に賛同するという声を得ることができた。

###### (c) 市民

- ・無

#### 5 メディア

- ・無

#### 6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

- ・無

#### 7 考察と自己点検（a-c から一つ選択し、説明する）

##### (b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

提言作成に際し、衣料管理士を養成する4年制の全大学の協力を得て郵送方式によるアンケート調査を行い、課題を抽出した。次に、シンポジウムを開催し、課題解決のための対策を検討した。同時に、資格認定機関や経済産業省と消費者庁からも意見を聴取した。このような経過を踏まえて表出した提言により、繊維製品が関係する地球環境の保全や生活の安心・安全・快適化のためにも衣料管理士資格者の役割は今後益々有用であることが確認された。さらに、衣料管理士の資格教育の基盤である被服学分野の人材育成が縮小しつつあるという現状打開のためにも、資格認定機関においては、資格の認知度を高めること、大学においては、被服科学分野の人材育成の強化を積極的に進めることが喫緊の課題として共有された。繊維製品の品質管理に関する資格養成が始まってから50年が経過する現在、資格認定機関と養成大学は、関係する企業の協力を得ながら、生活者視点による地球環境の保全や生活の安心・安全・快適化を見据えた更な

る取り組みが急務である。

インパクト・レポート作成責任者  
健康・生活科学委員会家政学分科会委員長 杉山久仁子  
提出日 令和3年8月16日

(提言)「シチズンサイエンスを推進する社会システムの構築を目指して」  
インパクト・レポート

1 提言内容

(1) シチズンサイエンスの知識生産活動への拡大に向けた広報活動

日本では、市民科学の取り組みを支援するシステムが構築されているが、知識生産をテーマとするシチズンサイエンスを広げるシステムの構築は途上である。今後、シチズンサイエンスをより一層拡大し、日本の学術の発展へと繋げていくためには、シチズンサイエンティストを、知識生産を目的とする研究へ動機づけるための施策や、既に動機づけられているシチズンサイエンティストを集約するシステムの構築が必要である。そのためには、シチズンサイエンスという営みを広く周知することを、まず始めなくてはならない。そこで、大学や学協会等は、シチズンサイエンスの存在および、その魅力を周知する広報活動を行うため、サイエンスカフェ等の取り組みを活用することが望ましい。そして、文部科学省および関連省庁は、一連の取り組みを主導するサイエンスコミュニケーターの雇用やイベント開催の予算的措置を進めるべきである。また、職業科学者は、サイエンスコミュニケーターにシチズンサイエンスの推進をすべて任せるのではなく、科学者自身が市民と一体となるシチズンサイエンスをより一層推進していく必要がある。

(2) シチズンサイエンスの研究倫理を保持する基盤整備

現状では、シチズンサイエンティストの研究倫理について、その教育や審査を行う基盤整備が十分ではない。シチズンサイエンスの拡大に際し、シチズンサイエンティストに対して、シチズンサイエンスの窓口となる大学、研究所、学協会、NPO 法人などの組織は、研究倫理基盤をはじめとした、更なる基盤の整備を進めるべきである。その際、日本学術会議による「科学者の行動規範」の周知と連携することも必要である。

(3) シチズンサイエンスを推進するための社会連携の基盤整備

科学コミュニケーションにおけるモデルの変遷に鑑みると、シチズンサイエンスの今後の発展のためには、日本でも職業科学者とシチズンサイエンティストの双方向性を備えたコミュニケーションの場が不可欠である。しかしながら、現状では、職業科学者とシチズンサイエンティストの橋渡しによる双方向性のあるシチズンサイエンスを推進するための社会連携の基盤が十分に整備されていない。学協会は、主催する学術集会でシチズンサイエンティストの発表を奨励し、双方向性を備えたコミュニケーションの場を提供すべきである。また、このような企画を立案、運営する委員会を設置し、社会連携の基盤整備を進めるべきである。

(4) シチズンサイエンティストの活動を支援する研究資金制度の確立

シチズンサイエンティストの活動を支援する研究資金制度について、現在、社会課題解決型の研究を助成する資金制度が存在する。これに対し、知識生産を目的とした研究を行

う際に、シチズンサイエンティストが研究代表者として申請できる柔軟な使用用途が認められる助成制度が必要である。文部科学省および関連省庁は、シチズンサイエンティストの研究を支援する研究資金制度を確立することが望ましい。職業科学者はシチズンサイエンスの重要性を認識し、社会課題解決型以外の研究に対して、現在の研究費制度にシチズンサイエンティストによる研究を組み込むことを推奨すべきである。

## 2 提言等の発出年月日

令和2年9月14日

## 3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

- 文部科学省とシチズンサイエンスの普及・拡大に向けての協議を重ねている。一連の議論に合わせる形で、シチズンサイエンスの概念を広く市民に周知することを企図し、関係有志により『みんなで作ろう「1万人のシチズンサイエンス」』と題するワークショップを2021年のサイエンスアゴラの企画として11月3日に実施予定である。
- Japan Open Science Summit 2021の企画セッション「学術会議若手アカデミーと考えるオープンサイエンス」（2021年6月18日実施）のなかで、「心理学におけるシチズンサイエンスの展開」という話題提供を行い、提言発出によって学協会で進んだシチズンサイエンスを紹介した。
- シチズンサイエンスをテーマとした番組制作等に向けた公開ブレインストーミングがNHKで行われ、岸村前若手アカデミー代表が提言を紹介した。
- 日本学術会議とGlobal Young Academyが共同主催で実施する国際会議（2022年6月12-17日、九州大学にて開催予定）において、シチズンサイエンスを主題とするセッションを企画している。

## 4 社会に対するインパクト

### (1) 政策への反映

④・無

2021年3月26日に閣議決定された第6期科学技術・イノベーション基本計画に反映された。特に以下のような形で触れられている。（該当部を太字と下線にて強調）

(p. 14) (3) Society 5.0 の国内外への発信・共有・連携

今後のポストコロナ時代の世界秩序模索の期間において、我が国が国際社会をリードするために、新たな社会モデルと価値、そして、それを実現するための戦略を言語化し、“Society 5.0”として国内外に具体的に問いかけていく。

国民に向けては、様々なメディアや共創の場等の活用により、多様なセクター間の対話と協働を促すなど、科学技術・イノベーションへの関心を不断に高めるための情報発信をはじめとする努力を継続し、市民参画による社会問題の解決や シチズンサイエンスを活性化 させていく。

(p. 59) …さらに、このような研究活動の変革や我が国全体の雇用慣行の変化によって、研究

者の在り方も変わる面があり、既に世界各地では見られる、**シチズンサイエンスとしての市民の研究参加**や研究者のフリーランス化など、多様な主体が研究活動に参画し活躍できる環境が我が国でも実現し、研究者とそれ以外の者が、信頼感を醸成しながら、知の共有と融合を進め、新たな形での価値創造を実現する環境整備を図っていく。

(p. 61) ③研究 DX が開拓する新しい研究コミュニティ・環境の醸成

○地方公共団体、NPO や NGO、中小・スタートアップ、フリーランス型の研究者、更には市民参加など、多様な主体と共創しながら、知の創出・融合といった研究活動を促進する。また、**例えば、研究者単独では実現できない、多くのサンプルの収集や、科学実験の実施など多くの市民の参画(1万人規模、2022 年 度までの着手を想定)を見込むシチズンサイエンスの研究プロジェクトの立ち上げ**など、産学官の関係者のボトムアップ型の取組として、多様な主体の参画を促す環境整備を、新たな科学技術・イノベーション政策形成プロセスとして実践する。 【科技、文】

## (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

### (a) 学協会

- 日本心理学会にて関連シンポジウム開催（2020年10月24日）「3つのシチズン・サイエンスプロジェクトと認定心理士ーシチズンサイエンスワークショップ開催の説明会も併せてー」
- 日本心理学会にて関連ワークショップ開催（2020年12月12日、2021年1月16日、2月6日）「シチズンサイエンスワークショップ」
- 日本バイオマテリアル学会の学会誌「バイオマテリアル」(39 巻第 3 号、2021 年 7 月発行) 所収の特集「SDGs からみたバイオマテリアル」内の記事「SDGs を支える科学者・研究者コミュニティになるために」（執筆者：岸村顕広）に本提言が引用された。提言内容に基づく学協会へのメッセージが書き込まれている。

### (b) 研究教育機関

- 2021年4月1日、福岡大学商学部にシチズンサイエンス研究センターが設立され、当該センターのホームページにおいて本提言が引用・紹介されている。(https://sites.google.com/fukuoka-u.ac.jp/citizenscience/)
- 九州大学社会連携推進室内に理事直下の組織として科学コミュニケーション推進グループ(Q-STRING)が設立されているが、Q-STRINGの活動内容の一つに「シチズンサイエンスの推進」が挙げられており、本提言が一定の影響を及ぼしたと考えられる(参考資料：公開シンポジウムパンフレット https://cooperation.kyushu-u.ac.jp/sciencecommunication/files/02\_A4\_science\_communication.pdf)。なお、Q-STRINGの活動には本提言執筆者代表である岸村が関わっていることから、今後の活動に提言内容が反映されることが期待できる。

### (c) 市民社会等の反応

- 日本版 AAAS 設立準備委員会の社会連携ワーキンググループ内にシチズンサイエンスユニットが設置され、様々なステークホルダーを交えてシチズンサ

イエンス推進に関わる議論が開始された。

## 5 メディア

- シチズンサイエンスをテーマとした番組制作等のための公開ブレインストーミングがNHKで開催された。それを受け、NHK シチズンラボが開設されるに至った。

NHK シチズンラボ URL: <https://www.nhk.or.jp/citizenlab/index.html?>

## 6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

特になし。

## 7 考察と自己点検（a-c から一つ選択し、説明する）

### (a) 予想以上のインパクトがあった

本提言は第6期科学技術・イノベーション基本計画に反映され、関連したシンポジウム、ワークショップが学協会で開催され、さらに、シチズンサイエンスをテーマとした番組制作のための公開ブレインストーミングがNHKで開催され、社会の関心が非常に高まっている。提言発出時に予想していた以上にインパクトがあった。現在、文部科学省と大規模なシチズンサイエンスプロジェクトの実現に向けて協議を重ねており、シチズンサイエンスを引き続き推進していきたい。

インパクト・レポート作成責任者

若手アカデミー24期代表

岸村 顕広

提出日 令和3年8月17日

(提言) 「我が国における移植医療と再生医療の発展と普及」  
インパクト・レポート

1 提言内容

(1) 脳死下臓器・組織提供増加に向けて

一般国民のみならず、医療者及び医療系学生の啓発、臓器・組織提供に携わる人材育成、ドナー移植コーディネーター制度の充実が必要である。虐待児童から臓器提供がなされないように、医療施設と関係各所と連携、虐待診断・鑑別支援のための公的支援体制が必要である（厚労省臓器移植対策室）。脳死下臓器提供時に組織移植のための組織提供が可能であることを一般国民、医療者に周知することも重要である。

(2) 心停止下臓器・組織提供増加に向けて

救急医療現場を担当する医師らへの啓発活動が、心停止下ドナーからの臓器提供増加に不可欠である。多方面での綿密な準備を行い、実施への検討が必要である（厚生労働省）。また予測される心停止や脳死ドナーの心停止（controlled DCD）が実施可能となるような倫理的・社会的側面を含めた検討が必要である。

(3) 不使用組織・細胞の再生医療または研究めについて

再生医療のみならず、新規の医療技術や医薬品の開発にヒト由来組織を用いた研究は必要であるが、現在の臓器移植法では移植不使用臓器を焼却処分するように定め、再生医療や研究への使用を禁じている。不使用臓器を、再生医療や研究に使用できるように厚生労働省令の改正や、臓器・組織採取システムの構築などが望まれる。

(4) 組織移植における法整備の重要性

現在、組織移植を規制する法令はなく、日本組織移植学会のガイドライン下で運用されている。最近、診療報酬上の改善はなされたが、実務を行う組織バンクの運用に対して国からの公的資金のバックアップはなく、組織移植コーディネーターの確保が困難である。現状を解決するには、組織移植も法整備を行い、組織バンクの財政的補助を行うことが必要である（厚労省 疾病対策課）。

(5) 臓器・組織提供・移植に関わる医療施設・スタッフの負担軽減

臓器・組織提供に関わった施設・医療者の人的、時間的、経済的、加えて精神的な負担は大きく、その負担を軽減する国レベルの体制構築（厚生労働省 研究開発振興課）が必要である。また、死体臓器・組織提供は急に発生し、夜間・休日対応が多く、移植施設側の負担を軽減する体制構築も必要である。メディカルコンサルタント制度だけに頼ることなく提供に関わる施設、移植施設の両面から、互いの負担を減らし、効率的かつ効果的（移植成績を維持）な臓器・組織の提供を可能にし、提供が増加しても、ドナー・家族の尊い決断に応えられるような体制を構築する必要がある。

## (6) 再生医療の現状と今後の展開

アカデミア、企業、行政が一体化したエコシステムの構築は、再生医療の更なる発展に重要である。実践的な技術支援や産学連携を推進する仕組みづくり、教育システムによる人材育成、臨床で課題となっていることに根ざして、新たな基礎研究を進展させるためのリバーストランスレーショナルリサーチの実施が望まれる。また、今後、国際的なリーダーシップを示していくために、臨床用データベースの相互利用や、データベースと AI 技術を活用した臨床情報の評価システムの構築などにより、日本の優れた再生医療の発信を容易にする基盤整備が進められていくことが期待される（AMED：国立研究開発法人日本医療研究開発機構）。

## (7) 国民からの理解促進に向けて

臓器移植・再生医療の発展のためには、これらが国民の中で深く理解され、議論されることが必要である。そのため、各世代に適した教育と啓発により、一般の科学リテラシーと倫理観を醸成することが重要である。昨年より中学校における道徳の授業が必修化され、『生命の尊さ』の題材として臓器移植が教科書に取り上げられている。これを契機に、中学、高校、大学と継続的に、移植・再生医療を通して生命の尊さについて我事として考える機会の提供、未来のリーダーの養成のための施策が必要と考えられる。また、これらの啓発にはマスメディアの役割が重要であり、学術組織が継続的にメディアとの対話を行い、メディアを通じた市民理解を促進することが肝要である。

## 2 提言等の発出年月日

令和2年（2020年）9月18日

## 3 フォローアップ（提言を浸透させるための提言者側のシンポジウムや出版等の活動）

- ・本分科会主催の公開シンポジウムの開催を予定（2022年2月頃）タイトル案「移植、遺伝子、再生医療の課題と改革」

## 4 社会に対するインパクト

### (1) 政策への反映

○有・無

- ・岡田潔連携会員が、再生医療等安全性確保法の見直しに係るWG（厚生労働省委託事業）にて、提言に基づく意見を、再生医療学会を介して提出（2021/6/2）
- ・瓜生原葉子連携会員が、第54回厚生科学審議会疾病対策部会臓器移植委員会において、提言内容も紹介しつつ意見を述べた。

(2021/5/19) [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_18696.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18696.html)

### (2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

(a) 学協会

- ・ 澤芳樹会員が企画し、日本再生医療学会にて患者・市民参画イベントを開催 (2021/1/24)「患者・社会と考える再生医療」
- ・ 澤芳樹会員が、第 20 回日本再生医療学会にて関連シンポジウム開催 (2021/3/12)「再生医療が開く明るい未来」
- ・ 第 56 回日本移植学会関連特別企画「この 10 年の成果」にて澤芳樹会員が講演 (2020 年 11 月 1 日)「この 10 年の心臓移植の成果」
- ・ 第 12 回大阪府移植医療セミナーにて福嶋教偉特任連携会員が講演 (2020/10/30)「臓器組織提供と臓器提供システム 移植医の立場から」
- ・ 第 57 回日本小児循環器学会にて福嶋教偉特任連携会員が開催 (2021/7/9-11)「国際小児心肺移植シンポジウム」
- ・ 第 56 回日本移植学会総会臓器提供委員会企画「10 年後、このシンポ『レガシー』になるために」(2020/11/9)にて瓜生原葉子連携会員が議論を実施

(b) 研究教育機関

- ・ 大阪大学医学部附属病院にて関連シンポジウム開催し (2021/3/26)、澤芳樹会員が講演「未来医療フォーラム：心筋再生医療の現状と展望」

(c) 市民

- ・ 島市立高校フォーラムで福嶋教偉特任連携会員が招請講演 (2021/3/16)「移植って、なあに。～いのちの大切さを考えてみませんか～」
- ・ Facebook にて提言内容を発信 (2020/9/19)

<https://www.facebook.com/yoko.uryuhara/posts/3299437450101917>

5 メディア

- ・ 特記事項なし

6 意思の表出内容において、他の異なる意見との関係性等に変化があれば記載してください。

- ・ 現時点では特記事項無し

7 考察と自己点検 (a-c から一つ選択し、説明する)

(a) 予想以上のインパクトがあった

○ (b) ほぼ予想通りのインパクトが得られた

(c) 期待したインパクトは得られなかった

法整備や国民からの理解促進に向けた影響は規制改革に関する WG への意見の反映や、市民公開フォーラムの開催など、ほぼ予想通りの推移を示しており、現在第 25 期の分科会において、本提言に基づいたアクションプランの策定と、セミナーの開催

に向けて、鋭意議論が重ねられている。今後の更なるインパクトの拡大が期待できるものと考えられる。

インパクト・レポート作成責任者  
臨床医学委員会移植・再生医療分科会  
委員長 澤 芳樹  
提出日 2021年8月31日